



# 店全体が総合芸術 異世界へ誘う洋食喫茶

## 異国調菜 芭蕉

本町五丁目、糸屋通りの「異国調菜・芭蕉」は、昭和12年（1937）開業の洋食喫茶店。創業者の小池魚心はビルマ（現ミャンマー）大使館で料理人として務めた経歴を持ち、芸術に造詣が深く独自の美的感覚を持つ人だったという。午（うま）年で馬を愛したことから、「馬小屋」をモチーフに設計された店内には魚心が収集した民芸コレクションがあちらこちらにディスプレイされ、店内は類を見ない「異世界」感を醸し出す。

平成20年（2008）には、「世界のムナカタ」として知られる版画家・棟方志功の壁画が店内の漆喰の壁より発掘され大きな話題となった。壁画は、大きな馬を中心に太陽、月、天女が躍動する縦2メートル・横2.7メートルの大作。昭和30年（1955）ごろ、志功のファンであった魚心が知人を介し制作を依頼したものであったが、完成の翌日には店内の雰囲気と合わないとして漆喰で埋められたものだったという。

芭蕉の「印度カレー」は創業時に魚心が開発し、今も変わらないレシピで愛され続ける看板メニュー。カレーの他にも、すべてのメニューは魚心が開発し、現在では三代目の小池一弘さんが引き継いでいる。2人席から団体用の個室まで完備される客席は、それぞれに趣向が異なり、訪れる度に違う楽しみを味わえる。

店内を自らが思い描くイメージに近づけるため、幾度となく改装を繰り返した魚心。店内に一步足を踏み入ると、そこは喫茶店、美術館、馬小屋が融合する迷路のような空間が広がり、店全体が常人には計り知れない美的感覚によって作り上げられた総合芸術。カレーのスパイスに加え、溢れんばかりの要素が五感を刺激し、日常から遠く離れた異世界に連れて行ってくれる。



2002 わがまち風景賞受賞

- 場所／桐生市本町5-345 ●電話／0277-22-3237
- 営業時間／午前11時00分～午後8時00分 ●定休日／火曜日・第二又は第三火曜日・水曜日連休